

逮捕手続の 実務 ~ 疑問解消 ~ 110 事例

■ A5判 ■ 並製 ■ 288頁

定価 (本体2,100円+税) 送料 300 円 ISBN978-4-8037-2487-5 C3032

編 著 者

東京地方検察庁公安部副部長、
前東京大学大学院法学政治学研究科教授
東山 太郎

著者

一橋大学大学院法学研究科法務専攻特任教授・
立教大学大学院法務研究科特任教授／検事
吉野 太人

慶應義塾大学大学院法務研究科教授／検事
津田 敬三

東京地方検察庁検事、
前慶應義塾大学大学院法務研究科教授・
前創価大学大学院法務研究科教授
松本 貴一郎

横浜国立大学大学院国際社会科学
 学研究院法曹実務専攻教授／検事
 相原 健一

学習院大学大学院法務研究科教授・
筑波大学大学院ビジネス科学研究科
法曹専攻非常勤講師／検事
高橋 理恵

本書のポイント

逮捕の現場で生じる「迷い」を解決！

逮捕の現場や、その前後の手続で生じる疑問を想定して、事例を設定。それに対して警察官がどのように対処するか、解決の指針を示す。

逮捕手続に絞った110事例を厳選！

緊逮、現逮、通逮はもちろん、任意同行、令状請求、逮捕に伴う搜索・差押え、引致等まで、110事例でカバー！

現役検事が、現場での活用を目的として執筆！

現役検事が具体的事例を設定し、多くの判例に言及しながら Q&A 形式で解説。各設問において結論を明示しているため、明解で理解しやすい。

内容見本

(大正 8~昭和 29年)	
大判大 8・8・30 附集 25・963 18, 20
大判大 15・9・28 附集 5・387 88
最大判昭 24・12・14 附集 3・12・1999 8
仙台高秋田支判昭 25・3・29 高判特 8・79 209
最判昭 25・6・20 附集 4・6・1025 107
東京高判昭 25・12・19 高判判特 15・51 231
名古屋高判昭 26・3・3 高判集 4・2・148 209
広島松江文判昭 27・6・30 高判判特 20・185 231
東京高判昭 28・5・19 案時 3・6・259 231
福岡高判昭 28・6・5 高判判特 26・23 231

**判例索引
付き！**

逮捕手続の実務

～ 疑問解消 110 事例～

栗山 太郎 編著

吉野 太人
津田 敬三
松本 貴一朗 著
相原 健一
高橋 理恵

られない。
 とも、運用としては、まず任意出頭を求めるとしても、通常逮捕状の
 求人が可能な状態にあるならば、任意出頭に先立って通常逮捕状を得ておく
 が望ましいと思われる。

前記のような、検査を期して被疑者を逮捕するという観点からは、事前に
 通常逮捕状を得ておいた場合においても、任意取調により十分な心証を得
 てから当該逮捕状が執行されるべきといわれる、被疑者の身柄拘束につい
 ては、やはり事前に逮捕状を得るというのが法の原則であると考えられるか
 らである（小林・中村基本（上）127頁）。

(2) 通常逮捕状の緊急執行と緊急逮捕

A 左緊急逮捕できる。

解説

通常逮捕状が交付されているにもかかわらず、これを執行しないで緊急逮捕することが許されるという問題である。この問題は、実務上、いわゆる指名手配がなされている場合に、手元に逮捕状を有していなければいわずに指名手配がなされている場合に、刑訴法201条2項により準用していれば、逮捕状の緊急執行によることになる。刑訴法201条2項により準用していれば、逮捕状の緊急執行について規定し、そのただし書において、逮捕状は「できる限り速やかにこれを示さなければならない」とされている。

3 現行犯逮捕をめぐる諸問題

(1) 共犯者の現行犯逮捕

委員Kは、審中も、深夜、繁華街の路上において、
衣袋中の財布をVから数メートル離れた場所であ
り、Vの様子をうかがい、その隙に、Bに手渡す。
Aが、Vのズボンのポケットから財布を手で盗
み、A及びBが、足早にその場から立ち去る状況を目
撃を行っているBは共謀共同正犯として現行犯

ては、教唆行為、幫助行為にも現行犯と解されている（渡辺・大コメ刑）。
 合は、教唆犯による教唆行為が犯罪の遂行にその直後にその現場で行われた場合と見做される場合がほとんど考えられ

1 逮捕状の請求

被疑者特定の程度

Kは、被害者Vから銀行の被害額を受け、捜査したところ防犯ビデオが記録されていたため犯人を特定できたが、人定が確認できない者氏名欄に防犯ビデオで特定した。「氏名不詳、身長1.72メートル短く、白色トックリセーターを着た年齢20代くらい、一見手」と記載の上、逮捕状を請求した。かかる逮捕状請求に照準をあ

「被疑者の氏名及び住居」を記載して被疑者を特定しなければならぬ（刑訴法 200 条 1 項）。令状主義のため、処分を受けるいわゆる一般令状は許されず、逮捕状においても、逮捕の目的は逮捕発付の時点で特定されていなければならない。裁判官は令状を発付するにも、もとより請求段階から対象が特定されなければならない。被疑者の氏名、年齢、身元保証事項とされている（刑訴規則 142 条 1 項 1 号）。

200条2項は、同法64条2項及び3項を準用し、逮捕者の氏名が明らかでないときは、人相、体格その他被疑者の事項で被疑者を指示することができるとし、住居が明らかを要しないとす。これを受けて、逮捕請求書におい

読み認められるものであり、
 裁判所と同一の場所であるの
 間＝小林・令状基本（上）185
 あるいは収容能力等の点か
 難あるいは不適当な場合が
 事件などの組織犯罪におい
 かに防ごうとしても被疑
 るなど罪証隠滅がなされる
 であれば、検察官は裁判所
 することができる（刑事法
 被疑者の留置場所の審判）

目次裏面参照▶▶▶

はしがき
凡 例

第1 緊急逮捕

- 1 緊急逮捕の要件
- (1) 重罪性
 - (2) 嫌疑の充分性
 - (3) 緊急性
 - (4) 理由の告知
 - (5) 司法巡査による逮捕の場合の引致手続等
 - (6) 逮捕状の請求
 - ア 「直ちに」の意義
 - イ 逮捕状の請求権者
 - ウ 逮捕状請求書の記載事項、疎明資料等
 - エ 釈放した場合等における逮捕状請求の要否
- 2 緊急逮捕をめぐる諸問題
- (1) 任意取調べと緊急逮捕
 - (2) 通常逮捕状の緊急執行と緊急逮捕
 - (3) 緊急逮捕後に被疑者が逃走した場合の再度の身柄拘束方法
 - (4) 緊急逮捕手続に重大な瑕疵がある場合の対応
 - (5) 逮捕状請求が却下された場合の再度の身柄拘束方法
 - (6) 逮捕状の呈示の要否
 - (7) 逮捕状未発付のままの検察官送致の可否
 - (8) 48 時間の時間制限と緊急逮捕

第2 現行犯逮捕

- 1 現行犯逮捕
- (1) 軽微事件と現行犯逮捕
 - (2) 犯罪の現行性
 - (3) 犯罪と犯人の明白性
 - (4) 現行犯人性の認定
 - (5) 現行犯逮捕の必要性
 - (6) 私人による現行犯逮捕
- 2 準現行犯逮捕
- (1) 「間がない」の意義
 - (2) 犯罪と犯人の明白性
 - (3) 「犯人として追呼されているとき」
 - (4) 「贓物又は明らかに犯罪の用に供したと思われる凶器その他の物を所持しているとき」
 - (5) 「身体又は被服に犯罪の顕著な証跡があるとき」
 - (6) 「誰何されて逃走しようとするとき」
- 3 現行犯逮捕をめぐる諸問題
- (1) 共犯者の現行犯逮捕
 - (2) 現行犯逮捕における有形力の行使

- (3) 現行犯逮捕に着手した後に被疑者が逃走した場合
- (4) 現行犯逮捕に先立つ搜索・差押えの適法性
- (5) 緊急逮捕すべきところを現行犯逮捕した場合
- (6) 準現行犯逮捕すべきところを現行犯逮捕した場合

第3 通常逮捕

- 1 逮捕状の請求
- (1) 被疑者特定の程度
 - (2) 「被疑者が罪を犯したことを疑うに足りる相当な理由」
 - (3) 有効期間を 7 日未満とする逮捕状請求の可否
 - (4) 逮捕状請求後の撤回の可否
 - (5) 被害者特定事項の記載
 - (6) 逮捕の必要性
 - (7) 同一事実による再逮捕の可否
 - (8) 余罪による再逮捕の可否
- 2 逮捕状の発付
- (1) 複数の逮捕状発付の可否
 - (2) 逮捕状発付後、逮捕前の引致場所の変更の可否
 - (3) 逮捕状発付後に、逮捕状請求書に記載漏れがあったことが発覚した場合の措置
 - (4) 逮捕状の有効期間が経過した場合の措置
- 3 逮捕状の執行
- (1) 逮捕状に重大な瑕疵がある場合の執行の可否
 - (2) 逮捕状の呈示
 - (3) 逮捕に伴う第三者に対する有形力行使の可否
 - (4) 逮捕状の緊急執行
- 4 引 致
- (1) 司法警察員から司法警察員への引致
 - (2) 司法巡査による逮捕後引致前の釈放の可否
- 5 逮捕後の手続
- (1) 弁解録取手続の時間的限界
 - (2) 逮捕後に被疑者が逃走した場合
 - (3) 逮捕後に逮捕状記載の被疑事実に関与があることが判明した場合

第4 その他

- 1 逮捕に関する諸問題
- (1) 令状によらない搜索・差押えの可否
 - (2) 逮捕状記載の引致場所と異なる警察署における留置の可否
 - (3) 任意同行が先行する場合の 48 時間の起算点
 - (4) 検察官送致の例外
 - (5) 検察官送致と逮捕前置主義

判例索引
編著者紹介

FAX でのご注文は、切りとらずにそのままご送信ください。FAX 03-3233-2871

申込書

* 逮捕手続の実務
～疑問解消 110 事例～

合 計 _____ 部

ご所属名	庁	道府県
(署・隊・課)		

ご担当者名 (TEL : _____)

係 名	氏 名

係 名	氏 名

(ご記入いただいた個人情報、購入申込み及びそれに伴うご連絡・弊社図書ご案内に利用させていただきます。)

*お申込みは合計部数だけでも承ります。



立花書房

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-28-2
TEL:03-3291-1561(代表) <http://tachibanashobo.co.jp>